

令和7年度 第4回大津市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 議事録（要旨）

1 日 時 令和8年1月28日（水）14時00分～16時00分

2 会 場 大津市役所 新館2階 災害対策本部室

3 出席者 委 員 土田分科会長、狩野副分科会長、大橋委員、清河委員、齋藤委員、坂下委員、
七條委員、杉本委員、中井委員、松田委員

（欠 席）井上委員、山口委員

事務局 こども未来部長、こども未来部次長、こども総合支援局長、
こども・若者政策課長、課長補佐、政策推進係係長、政策推進係主査、
政策推進係主任、幼保支援課長、課長補佐、幼児教育指導監、
保育入所課長、子育て支援給付課長、児童クラブ課長、母子保健課長

4 傍聴者 0人

5 議事

- （1）就学前教育・保育施設等審査部会の委員の指名
- （2）大津市子ども・若者支援計画の進捗について
- （3）大津市こども・若者支援計画の代用計画について
- （4）大津市立幼稚園再編等検討委員会の進捗報告について
- （5）大津市立保育園・こども園の給食費について
- （6）児童福祉専門分科会における虐待通報があった場合の対応について

6 会議録（要旨）

（1）議事

※議事の公開・非公開については、一部公開とされる。

（1）就学前教育・保育施設等審査部会の委員の指名

会 長 ： 就学前教育・保育施設等審査部会の委員の指名について、前任の横田委員が11月30日付で退任されたことに伴い、新しく委員となられた松田委員を就学前教育・保育施設等審査部会の委員として指名する。

事 務 局 ： （2）大津市子ども・若者支援計画の進捗について、資料に基づき説明。

委 員 ： 割合が下がっているファミリーサポートセンター事業について、周知が足りていなかったとのことだが、今後どのように周知をしていくのか。

また、3ページの3号認定子どもの数が減っているとのこと、保育士不足と言われたが、待機児童が多く発生している現状から、その辺りは正確であるのか？

会 長 ： ファミリーサポートセンターについては、必要性についてから検討されるほうが

良いと感じる。

事務局：ファミリーサポートセンターについての認知度が低いと分かったので、今一度ホームページ等で周知を図っていきたいと考えている。

会員を増やすために、おねがい会員からまかせて会員に移行してもらえよう、その対象の方への周知が大切と感じている。

また、講習を実施しているが、会員だけでなく受講可能なため、講習会の周知をより広く行って、制度の周知を図っていきたい。

社会福祉協議会に委託しているが、良い冊子があるものの、認知されていないと感じているので、社会福祉協議会と天津市の双方の発信力を活かして周知をしていければと思う。

委員長：ファミリーサポートの案内は保育園でも入園説明会の際に周知をしている。

委員長：実際にどのように利用するのが少し分かりにくいと感じる。実際に使われた方の満足度などが周知できると良いのかと思う。

事務局：公立の保育士不足の一つの対応として、採用人数を倍にしたり、奨学金の補助、潜在保育士への給付金制度、働く場所の魅力発信としてPR冊子の更新など、各大学や養成校だけでなく高校にも周知を行っている。令和8年度は改善の見込みである。

委員長：就職面接会採用者数は3人しかいないという説明があったが、保育は関係ないのか？

就職活動としては、今はオンラインが多く、なかなか対面までいかないのかと感じた。

事務局：一般就職が対象である。

委員長：1歳や2歳の子を持つ保護者が保育園に入れていなくて、就職の際にも困っている方が周りにおられる。その視点で質問させてもらった。

事務局：待機児童数について、令和7年度は132人と少し減少した。8年度からは教育保育職を創設し、保育園でも幼稚園でも働くことができる職員の採用を行っている。状況を見ながら、配置についても考えていきたいと考えている。

委員長：子どもがいて就職ができない人がいるということが大きな問題であると感じる。

委員長：人材確保について、すぐに答えが出るものではないので、準備してしっかり考えないといけない。短期大学の幼児教育課が閉鎖されていていっている中で、4年大学でもあまり人気がない状況である。保育士のなり手が少ない。そのうち、新規卒業者がいなくなる時代が来ると思う。そうすると中途採用も難しくなる。そうなった時にどうするかを考えるのではなく、その前に何かしていくことが必要だと

思う。滋賀県も京都女子大学の看護科を設置というニュースがあり、県は早くに動いている印象がある。大津市も案を考えないといけないと思う。

会 長 : 以前は、保育士は憧れの職業だったが、今の学生に話を聞くと、実習に行って厳しいと感じ一般企業へ行く方も多い。金額面ではなく、現場の魅力が上手く伝われば良いと思う。

事 務 局 : 滋賀県においては、中学生向けに「保育まるわかり BOOK」を作成している。大津市の方ではPR冊子を更新し、高校や養成校に配っている。中長期的に保育士の確保、学生にとって働く場所の一つの選択肢になるように機運醸成に努めている。

会 長 : 子どもを保育するという仕事の重大さを世の中に認められていないと思う。かつてはそうでなかったように思う。

事 務 局 : (3) 大津市こども・若者支援計画の代用計画について、資料に基づき説明。

委 員 : 資料の必要定員数とは何か？

事 務 局 : 大津市の需要としてこれくらいの定員が必要であるという数字になる。

会 長 : 来年度から始まる事業の見込みを立てていただいているが、正確なことは、蓋を開けてみないと分からないことだと思う。令和8年度9年度の利用実績を踏まえて、見直しをしていただけたらと思う。

事 務 局 : (4) 大津市立幼稚園再編等検討委員会の進捗報告について、資料に基づき説明。

委 員 : 中学校区と幼稚園の関係はあったが、小学校はどうなっているのか？小学校が無くなると地域は大変である。小学校と幼稚園が隣り合っているような施設で、幼稚園が無くなってしまうと小学校の魅力が減ってしまうことに繋がる。であれば他の地域に住もうとなるが、小学校の統廃合などはどうなのか？

事 務 局 : これまで1小学校区1幼稚園で運営してきた。まずは非常に園児数が減っている幼稚園を対象にしている。保育所志向の高まりを受け、幼稚園が影響を受けている。小学校も児童数が減っているところもあるが、まずは一定の集団規模を確保するために公立幼稚園の再編を検討している。

小学校との連携については、既に再編を実施した幼稚園での取り組みを参考に、今後再編がされる地域についても取り組んでいく。

委 員 : 地域にとって大変なことだと思う。地域にしっかり情報が届くようにしていくことが大切だと思う。

会 長 : 私立園の情報があまりないが、公立園の役割をしっかりと勘案した上で、私立園があるから大丈夫という判断となったのか？

事 務 局 : 志賀や長等などは、保育施設や民間の認定こども園、京都の私立園に行かれるなど、選択肢が多くある地域であり、中心市街地であっても園児数が減ってきてい

る園となる。幼稚園が無くなった地域も含めて幼稚園教育を継続していこうというのが検討委員会の意見である。また、駐車場の確保などの、通園保障が必要であるというのが検討委員会の意見である。

会 長 : 車を持っていることが前提となっていることは少しずれている気がするが、重要なのは、すべての保護者の方が幼稚園を選べるということが確保できているのかということだと思う。

委 員 : 幼稚園の話で以前したが、保育園の待機児童が多い中で、幼稚園は減少傾向にあるというのは、預けたい人がいる中でアンバランスだと感じる。大津市は共働き世帯が多く、また、核家族も多いので、その家庭は保育園しか選択肢にないと思う。通勤される保護者については、8時からでも遅いと思う。

本当なら幼稚園に行かせたかったが、時間の関係上、保育園しか選択肢がなかったという保護者がいるので、今後、幼稚園の開いている時間を延長してもらえれば、働いている保護者の選択肢として増えてくる。

共働き世帯の選択肢を増やす、幼稚園の存続という点も含めて、朝の時間をより早くする検討をお願いしたい。

お弁当は作れるが、朝の時間が無理という保護者が周りにいる。

事 務 局 : 預かり保育の延長は、令和7年度から実施した。当初は、18時までにしよという案もあったが、現場の幼稚園の先生と協議した結果、朝と夕30分ずつに分けて実施することとなった。

統計はまだとれていないが、夕方の利用より、8時半からの朝の利用の方が多かったという話を聞く。すぐに変更は難しいと思うが、情報を収集し、検討していく。

会 長 : 本来であれば、幼稚園・保育園・こども園、どこでも同じサービスを受けられるのが基本だと思う。公立幼稚園の培ってこられた文化や魅力を発信していてももらえたらと思う。

委 員 : 真野北は伊香立と一緒にっており、伊香立の子はバスで来ている。真野中学校区は非常に広いことから、不公平感が生じないような方策を検討してもらいたい。

事 務 局 : 通園バスの検討はまだこれからであることから、ご意見を参考に検討させていただく。

会 長 : 人数からすると再編はやむをえないと思うが、公立幼稚園の良い部分を薄めることなく市民に提供していただきたいと感じている。

事 務 局 : (5) 大津市立保育園・こども園の給食費について、資料に基づき説明。

会 長 : 据え置かれるとのことで、保護者から異議が出ることはないと思うが、いずれは

値上げする必要があるとのことで、振り出しに戻ったような感じにはなる。

委員：保護者を対象にしたアンケートで、８０パーセントくらいは上がるのが仕方ないという意見になっていたと思うが、一方で、少数とはいえ、値上げしないほうがいいという意見があったので、据え置きは良かったと思う。

今後の検討にあたっては、経済的に苦しい方への対策を引き続き行ってほしい。
他の市町も据え置きとなったところがあったのではないと思うが、大津市で据え置くとなった情報は、保護者としても安心できる情報なので、そういった情報も発信できるのであれば、選ばれる大津市に繋がると感じる。

事務局：検討時の中核市への調査では、公定価格に沿って対応している市、時々上げる市、据え置いている市があった。

大津市で据え置くと決定してからの他都市の状況は把握していない状態である。

委員：給食は業者委託か？職員も市職員か？

事務局：自園給食で、全員市の職員である。

委員：値上げしないことは良いが、例えば、奈良市とかは業者委託先に負担がいつている。値上げしないことで誰かに負担がいつているのではないかというところは注意が必要だと感じた。

事務局：（６）児童福祉専門分科会における虐待通報があった場合の対応について、資料に基づき説明。

会長：前回の分科会の決定に沿った形でご提案をいただいた。

過去、審議会が成立しなかったことが２回あったと記憶しており、前回もぎりぎりであった。議題からして成立しないことは避けたいことから、母数を減らして、成立要件を緩和するというのは妥当とを感じる。

半面、決まったことは分科会に報告させていただくことは必要とを感じる。

委員：審査部会と調査委員会は別だと思うが、調査委員会を立ち上げるかを審査部会で決めるのか？どういう役割か？

事務局：調査については、大津市が組織して実施することになる。実務者会議を組織して調査を行う。

委員：新しく部会を立ち上げて、何をするのか？

事務局：調査をした結果、改善勧告を出すなどの措置を出した時に、ご意見をいただく。案件の説明や調査の経緯などを報告させていただき、ご意見をいただく。

委員：緊急という訳ではないのか？

開催するための人数の問題で部会を設置するということで、決まったことは最終的に分科会に挙げていくという形になるのか？

事務局：必ず審査部会に意見を聴くという形になっており、案件が起こったのにずっと措置をせずに待たせておくことはできない。

委員：最初に起きたときに、意見が聴きたいというところが緊急になるという理解で良いか？そのあとは１２人に意見を聴くのか？

事務局：他の部会でもそこで完結しており、最終は全体会で報告している。今のところは部会で完結と考えている。分科会に改めて報告すると、意見が二重になると感じており、そこまでは考えていない。

委員：いつ起こるか分からないからつもりをしておかないといけなのか？

事務局：人が集まらないから２週間後、などとならないようにしたい。かつ、専門的な立場として、色々な意見を聴けるような形としたいと感じている。

会長：審査部会を設置するという方向でお願いしたい。

会長：審査部会の委員の指名、審査部会長の選任
～～以降、非公開～～

7 閉会